

# もっと知りたい『改訂版 高校生の音楽1』

## こんなときはどの教材？

### Q1 合唱曲を探している

長く愛されている「春に」(p.80)と、新しく収録した「民衆の歌」(p.78)はぜひ歌ってほしい合唱曲です。他に、原曲の鑑賞と併せて取り上げたい「フィンランディア」(p.73)や、ア・カペラの「はるかな友に」(p.74)や「Mille regrets (ミル・ルグレ)」(p.76)などを用意しています。また、ぜひ「声の不思議を探る」(p.28)で生徒の声探しに取り組んでみてください。



声の不思議を探る (p.28・29)

### Q2 「批評」がよくわからない

芸術科音楽における批評とは「音楽のよさや美しさなどについて、言葉で表現し他者に伝えること」(指導要領解説より)であり、聴き取った(=知覚)ことと感じたこと(=感受)を関連付けて、根拠を示すことが重要です。「音楽を聴いて感じたことを自分の言葉で書いてみよう」(p.121)では、音楽を形づくっている要素や構造などに着目して、生徒自身の想いや価値判断を、適切な言葉で客観的に表現するよう促しています。鑑賞教材の「鑑賞のポイント」をもとに、批評を論じ合う主体的・対話的で深い学びへの発展も考えられます。

### Q3 器楽で和楽器を扱いたい

箏 (p.136)、三味線 (p.138)、尺八 (p.140)の奏法と鑑賞教材をセットにして見開きで掲載しました。演奏に慣れたら和楽器アンサンブルを。水戸黄門主題歌としておなじみ「あゝ人生に涙あり」(p.106)に挑戦してみてください。

### Q4 創作活動を深めたい

作品を他者の視点から眺めることが学習を深めます。「自分の音楽をつくろう」(p.110)や「音素材を生かしてつくろう」(p.114)の作品も、交換し合って演奏すると新たな発見が得られます。様々な記譜の例として、武満徹とグラフィックデザイナーの杉浦康平による「弦楽器のためのコロナⅡ」(p.159)の美しい図形楽譜もご参照ください。

#### 参考

#### 教育内容の主な改善事項について

平成30年3月に新高等学校学習指導要領が告示された。教育内容の主な改善事項のひとつとして、言語能力の確実な育成が挙げられる。具体的には科目の特性に応じた語彙の確実な習得、主張と論拠の関係や推論の仕方など、情報的的確に理解し効果的に表現する力の育成を図ることとし、学習の基盤としての各教科等における言語活動を充実している。教科の目標でも「音楽的な見方・考え方」という記述が追加されており、自分なりの考えを持ち、他者と言葉や音楽で伝え合う活動の一環として、授業における「批評」の必要性は今後もますます高まっていくだろう。

#### 音楽とは「人間によって 組織づけられた音響」である

ジョン・ブラッキング(イギリスの民族音楽学者・社会人類学者。岩波書店『人間の音楽性』より)